平成２５年度

第8回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿

SYD SINCE 1906 公益財団法人 修養団

後　援：文　部　科　学　省
「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益財団法人日本レクリエーション協会
公益社団法人日本キャンプ協会

受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

文部科学大臣賞

- 鳥取大学　障害児教育研究会　（鳥取県）

理事長特別賞

- 石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」　（宮城県）

優　秀　賞

【小・中学生の部】 宇都宮市立泉が丘中学校　（栃木県）

【高 校 生 の 部】 京都府立宮津高等学校　建築科　（京都府）

【大学・一般の部】 該当なし

特　別　賞

- 北海道小樽工業高等学校　ボランティア同好会　（北海道）
- 福島県立平工業高等学校　生徒会　（福島県）
- 身延山高等学校　手話コミュニケーション部　（山梨県）

☆第8回SYDボランティア奨励賞には、34都道府県より[小・中学生の部]27件、[高校生の部]44件、[大学・一般の部]16件の計87件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」 一筋に歩み続けて108年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

鳥取大学　障害児教育研究会　（鳥取県）

当研究会は昭和48年に設立された文化系サークルで、会員である障害をもつ子ども達と一緒に過ごす催し「子ども会」を年6回開催し、その企画運営を全て行っている。

「子ども会」の内容は、長い活動の中で多少の変化はあるが、近年は①ピクニック（5月）、②運動会（6月）、③キャンプ（8月）、④芋掘り（10 月）、⑤市内オリエンテーリング（11月）、⑥クリスマス会（12月）である。

子ども達により親しんでもらうために、「子ども会」を開催する時は名称を「どんぐり会」と称し、部員が扮する「村長」を長にして「ころりん村」という村の村祭りに、子ども達が遊びにやってきたという設定のもと行われる。村長は会の運営を担う幹部の役職の一つであり、1年間固定であるため、子ども達にとても愛され、かつ憧れの存在である。現在は42代目のチョコ村長が運営している。また、参加する子ども達は、季節に合った名前のいくつかの班に属し、部員はそれぞれの班のまとめ役としてのリーダー、子ども一人一人に付くボランティア、そして裏方の本部で活動する。「子ども会」毎に部員はリーダー、ボランティア、本部をまんべんなく経験することになる。

部会は週に2回開催され、「子ども会」の開催に向けて話し合いや打ち合わせを重ね、開催一週間前には毎日開かれる。ここでは、障害児がどのような子かという「個人情報」の共有や、同じダウン症や自閉症でも、子どもによってその症状が異なるため、その子に適した接し方などの確認を行い、いかに子どもたちに楽しい一日を過ごしてもらえるかを考えている。

また、参加人数が多く、ボランティアが部員だけでは足りない場合は、校内の学生に呼びかけ、外部ボランティアとして参加してもらっている。これは他の学生が当会の活動を知ることを通し、障害児に関心を持ってもらうきっかけになると考え、大切にしていることである。

また、他大学との交流事業に参画するなど、地域の他団体とも活動内容を共有し、活動範囲を広げて行きたいと考えている。長く続くサークルをさらに発展させつつ、しっかりと後輩につないでいきたい。

〈みんな大好きチョコ村長〉
（左奥に立っているのがチョコ村長）

〈美味しいおにぎりの完成〉

〈おもいっきり水遊び〉

〈盛り上がる運動会〉

〈お兄さんと一緒に作るキャンプのカレー〉

理事長特別賞

石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」　（宮城県）

本校は宮城県牡鹿半島に位置し、寄磯、大原、鮎川の3地区の中学生が通っている、海と山に囲まれた自然豊かな地域です。牡鹿地区は東日本大震災の地震と津波で大きな被害を受けましたが、学校は高台にあったため、大きな被害はなかったが、半数以上の生徒が津波と地震で家を失い、これを機に転校する生徒が多く、現在は43名という少人数で頑張っている。

今回の津波によって、町と人口、そして活気と笑顔が奪われたが、たくさんの方々から支援をいただいた事で、今この地に残っている私たち中学生が地域のために活動し、それが今まで支えて下さった方々への恩返しにもつながると考え、大好きなこの町に一人でも多くの笑顔を取り戻せるようにと願い、平成24年から「笑顔創造プロジェクト」を始めた。

プロジェクトは、全校生徒を学年を越え6つの班に構成し、班ごとに「笑顔を取り戻す活動は何か」を話し合い、5つの活動を行った。①仮設住宅と老人ホームでのソーランの披露⇒たくさんの人と交流して、地域の笑顔を生み出すことができた。②地域の清掃と地域美化看板の設置③地域復興商店街「おしかのれん街」のPR パンフレットを作成し、市役所や観光案内所に置いてもらった。④老人ホーム訪問と施設清掃⇒私たちが清掃をすることで、お年寄りやホームで働いている方々の笑顔を見る事ができた。⑤笑顔カレンダーの作成⇒地域の人の笑顔の写真を撮り、仮設住宅等に配布した。好評で来年も続けて欲しいとの声もあり嬉しかった。

これらの活動を通して地域の笑顔をつくることができ、地域の方の笑顔を見ることで自分自身も笑顔になった。そして、中学生にしかできないこと、この地域の希望は私たちに託されていることが分かった。小さなことでもみんなで協力すれば大きな結果がついてくる、実践することに意味があると学べた。この思いを忘れずに、笑顔創造プロジェクトを牡鹿中学校の伝統にして、自分たちの力で地域を元気にしていきたい。

〈プロジェクトに向けての話し合い〉

〈地域の方々との千羽鶴折り〉

〈特別養護老人ホームでのソーラン披露〉→

〈地域の清掃後、ポイ捨て禁止の看板を設置〉

←〈「おしかのれん街」PR パンフレット〉

←〈笑顔のカレンダー〉

優　秀　賞

【小・中学生の部】 宇都宮市立泉が丘中学校　（栃木県）

小中が連携した「地域に根付いた貢献活動」

平成10年頃、本校の東側を流れる越戸川はゴミがたまり、水はけが悪く、夏場には悪臭も漂うひどい状況たっだ為、生徒会執行部が中心となり、6月に越戸川美化清掃活動、10月には駅東公園清掃美化活動を全校生徒で行ってきた。平成20年頃からは各学年の学習年度計画に取り入れると共に小中が連携した地域学校圏の仕組みを生かしたボランティア活動を行っている。

活動内容は①隣接する泉が丘小学校児童と共に1.5kmの範囲を小中混合42班に分け、越戸川せせらぎ通り清掃美化活動、②学区内の今泉小学校児童と駅東公園清掃美化活動、③地域の年間行事に沿って、地域住民と一体となったボランティア活動を行っている。また、毎年10月には生徒会が呼びかけ、鍵盤ハーモニカを回収し、JICA を通じてカンボジアに贈呈する活動も行っている。

このボランティア体験をとおして、生徒たちに奉仕の心を養うとともに、社会の一員としての使命、役割について考える一助とし、また地域住民等との協同により、地域との密接な関係を築くことを活動のねらいとしている。当初生徒会執行部を中心に取り組んでいた活動だが、学校や地域の恒例行事として定着し、今年で15年目を迎えた。泉が丘地区は「まちづくり推進事業モデル地区」となっているため、地域の方々のボランティア意識が高く、地域や自治会の方々との交流を通した環境学習や体験学習の実践で奉仕の心や人間性の醸成、勤労の喜びや尊さが育まれていると感じている。今後もこの清掃活動をさらに定着させ、継続していきたい。

〈越戸川の清掃は小・中混合の
グループで清掃をしながら交流〉

〈公園内の清掃は小・中の子どもたちと PTA、
教員、住民が一体となっての協同作業〉

〈敬老会でのボランティア活動〉

〈地区の行事「街づくり餅つき大会」
でのボランティア活動〉

〈鍵盤ハーモニカの贈呈式〉

【高校生の部】 京都府立宮津高等学校　建築科　（京都府）

本校建築科は京都府立で唯一の学科であり、「地域に必要とされる学科」を目指し、平成13年に行った「落書き消し」をきっかけにさまざまな地域連携ボランティア活動に取り組み始めた。地域連携活動は①教育支援、②小中高連携、③環境美化保全、④公共施設、⑤伝統建築保全、⑥復興支援等の活動に分けられる。

①平成13年から地元産の間伐材を利用して「ままごとハウス」を製作し、地元の幼稚園に17棟、福島県郡山市の幼稚園に7棟寄贈した。また、支援学校の子ども達の遊び場として「ドームハウス」や「休憩所・ウッドデッキ」の製作等も行った。②小学生に建築に興味を持ってもらうため、小学生建築デザイン展を建築業協会等の後援を受け、毎年実施している。また、夏休み工作の製作指導等も行い、ものづくりの楽しさを教えている。③活動のきっかけとなった落書き消しはその後、20年度、24年度の2回行ったが、「落書き消し」の取り組みを広くアピールすることができ、新たな落書きはほとんど発生しなくなった。また、毎年8月に行われる「道路クリーンキャンペーン」には10年超参加している。④雨・雪をしのげるバス停留所待合室の製作や駅のホームのベンチ等を製作寄贈。⑤地元の大工棟梁や瓦職人の指導を受けながら神社や地蔵尊の祠修繕を行ったり、市街地の町並み調査を行い、「木造伝統建築紹介パンフレット」を作成し、商工会議所等に寄贈した。⑥災害復興支援として、会津若松市に「避難所用の木製間仕切り板」「お茶席用長椅子」、舞鶴市に「木製遊具」等を寄贈している。

今後は、屋外での遊びを制限されている郡山市にある残り8つの幼稚園への「ままごとハウス」の寄贈や、被災地の復興支援活動にさらに取り組んでいき、継続発展させたいと考えている。

〈避難所用の「木製間仕切板」の製作〉

〈宮津駅へ「木製ベンチ」寄贈〉↓

〈活動のきっかけとなった落書き消し〉

〈地蔵尊の祠修繕〉→

〈郡山市・あけぼの保育園へ「ままごとハウス」寄贈〉

〈宮津幼稚園へ「ままごとハウス」寄贈〉

特　別　賞

北海道小樽工業高等学校　ボランティア同好会　（北海道）

本校ボランティア同好会は「人のために役立つ活動」をテーマに地域の子どもたちのために科学工作教室に取り組んでいる。その他、募金活動や清掃活動、地域行事への参加や支援等の活動も行っている。

工業高校の特色を生かし、平成21年度から「ものづくり」と「理科」のおもしろさを市民や子どもたちに伝えるため、様々に工夫した実験装置や観察装置を作成し、小学校、児童クラブや科学の祭典イベント会場等で公開し、楽しんでもらっている。

装置としては①子どもたちに音楽を楽しんでもらおうと真鍮管で音階を作った「バンジーチャイム」、②環境・エネルギー意識を高めるため、紫外線に当たると色付き、夜光る「環境スライム」、③重力場のモデル装置としてプラスチック板を熱で変形させ、ビー玉で重力場がわかる「逆二乗面」等がある。

理科工作教室では、ゴミ袋で作った熱気球やペットボトルを利用した LED ランプ等を親子連れや多くの市民に楽しんでもらった。

この活動で子どもたちの興味を引き出し喜んでもらえ、知的好奇心を育てられていると感じている。また、生徒自身にも説明能力、コミュニケーション力を高め、活動意欲を高めることにもつながっており、双方にとって価値ある活動となっている。この活動の実践は、「人のために役立つ」ばかりでなく、人々の喜びの笑顔や励ましの言葉が自分たちに跳ね返り、大切なものを与えてくれることも学んでいる。

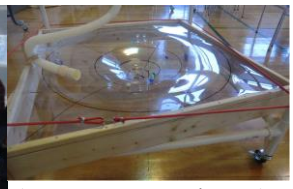
関わった生徒は高校を卒業した後もこのようなボランティア活動への参加意欲を維持し、参加希望を寄せ、高校生と一緒に活動を行い、現在は在校生22名、卒業生や市民の方々を含め40名規模で活動を行っている。

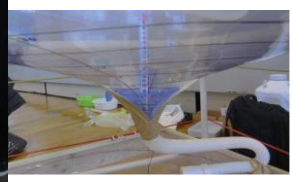
この活動を継続し、さらに構成メンバーが増え、地域に貢献できる力量も増大すると考えている。

〈同好会自作の熱気球〉

〈小学校での科学教室〉

〈逆二乗面（重力場モデル）の装置〉


〈下段面にビー玉が転がる〉


〈上段から下段へのルート〉

福島県立平工業高等学校　生徒会　（福島県）

本校生徒会は、「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」を活動理念に、日々活動を行い、その活動は地域周辺のボランティア活動から国際貢献活動まで幅広く行われている。

主な活動は①アルミ缶回収による車椅子寄贈。平成13年から実施し、これまでに34台を特別養護老人ホームへ寄贈。当初は学校内の回収であったが、近年は地域周辺の協力をいただき、回収の量が増えている。②インクカートリッジ回収による開発途上国支援。平成17年から実施し、NPO法人等を通じて、バングラディシュやネパールの子ども達に文房具等の教育支援を行っている。この活動も周辺企業等の協力を得て

活動が広がっている。③アフリカ・マリ共和国への支援物資輸送。平成18年から実施し、NPO法人を通じてジャージや運動靴を寄贈、輸送費は校内募金で賄っている。④ペットボトルキャップ回収による開発途上国支援。平成20年から実施、今年度は512kg回収し、ポリオワクチン275人分相当を寄附した。

これらの活動を通して、生徒自らが考え、行動するという積極性を身につけることができた。また、自分たちで何かを成し遂げたいという熱い想いを持って活動してきたことが活動の拡大に繋がり、人との新たな出会いから、また新たな活動のきっかけになるヒントが得られた。活動開始から10年超経つが、役員が変わり、顧問が変わっても「すべては喜んでくれる人々の笑顔のために」という気持ちを忘れることなく、これからも地道に活動を続けて行きたい。

〈アルミ缶回収による
34 台目の車椅子〉

〈アフリカ・マリ共和国
への支援物資輸送式〉→

〈車椅子贈呈式〉↓

→〈お礼の写真〉

身延山高等学校　手話コミュニケーション部　（山梨県）

本校手話コミュニケーション部は、手話の学習を通して、聴覚障害者への理解を深め、聴覚障害者機関や団体との連携を図り、心豊かな社会の実現に向けて貢献すること、また、聴覚障害者団体と共に住みよい社会を築くための活動をしていくことを目的としている。

特に力を入れている活動は①県立ろう学校や保育園児・小学校児童との異校種間交流で、ろう学校との交流は11年目を迎えている。②東日本大震災で被災された聴覚障害者への支援プロジェクト。被災地の聴覚障害者の状況や支援方法を学習し、仮設住宅での手話教室を気仙沼市や相馬市で行った。③ろう者主催イベントへのボランティア参加。今年度は6月に開催された関東ろう者体育大会でお手伝いを行った。④県高等学校芸術文化祭総合開会式での手話通訳・手話コーラスの実施。⑤山梨国民文化祭での手話パフォーマンスフェスタの開催。フェスタは生徒たちが主体となり、準備運営を行い、今年度は「災害について考える」をテーマにシンポジウムを行った。現在は身延町の障害者用のハザードマップ作成に向け活動を行っている。

これらの活動が評価され、地域の教育委員会や小・中学校から講演や手話教室の開催を依頼されるようになった。今後はより多くの方に手話の普及と聴覚障害を理解して頂くために、部員全員がもっと手話単語を覚え、もっと積極的に聴覚障害者と交流し、手話のコミュニケーション能力を向上させ、被災地での支援活動として手話教室を開催すると共に、被災地の聴覚障害者の現状を伝えたい。

〈関東ろう者体育大会での
ボランティア活動〉

〈小学生への手話教室〉

〈被災地仮設住宅での手話教室〉

第8回　SYDボランティア奨励賞　実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ･団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主　催：SYD（公益財団法人修養団）
後　援：文部科学省
「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益財団法人日本レクリエーション協会
公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣　旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対　象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

(1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
(2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
(3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
(4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等9名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表　彰

文部科学大臣賞　1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ2名招待）

理事長特別賞　1 点　**＊今回に限り特別に設定**

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

優　秀　賞　2点（小・中学生の部、高校生の部）　＊大学生・一般の部は今年度該当なし

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特　別　賞　3点（高校生の部）

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品

6. 贈 呈 式

期日：平成26年2月11日

会場：SYDホール

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

平成25年12月1日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷 4-25-2　SYDボランティア奨励賞 係

TEL：03-3405-5441 FAX：03-3405-5424　E-mail：info@syd.or.jp http://www.syd.or.jp/

選 考 委 員	（順不同・敬称略）
明石　要一（千葉大学名誉教授）	大野　曜（[公財]日本女性学習財団理事長）
長沼　豊（学習院大学教授）	仲野　好重（[-財]人間塾代表理事・塾長）
堀井　榮夫（全日本中学校長会事務局長）	山田　一功（[公財]日本PTA全国協議会相談役）
國分　正明（[公財]修養団理事長）	山﨑　一紀（[公財]修養団専務理事）
青木　富造（[公財]修養団理事・青年部長）	

過 去 受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

第1回（平成18年度）

文部科学大臣賞　京都市立京都御池中学校（京都府）

優　秀　賞　**【小学生の部】**鏡石町立第一小学校（福島県）

＊【高校生の部】該当なし　**【中学生の部】**庄原市立東城中学校（広島県）

【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク（神奈川県）

特　別　賞　◆国崎翠・吉居夏奈（北海道）　◆美幌町青少年育成協議会（北海道）
◆喜多方市山都第一小学校（福島県）　◆熱海市立小嵐中学校（静岡県）
◆加藤ひとみ（岐阜県）　◆伊江村立伊江中学校（沖縄県）

第2回（平成19年度）

文部科学大臣賞　香川県立多度津水産高等学校（香川県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**木更津市立鎌足中学校（千葉県）

＊【小学生、一般の部】該当なし　**【高校生の部】**学校法人高倉学園豊橋中央高等学校（愛知県）

特　別　賞　◆天草市立城河原小学校（熊本県）　◆志布志市立通山小学校（鹿児島県）
◆東横学園中学・高等学校　中学2年（東京都）◆多治見市立多治見中学校（岐阜県）
◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」（神奈川県）
◆熊本県立盲学校（熊本県）◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（京都府）
◆ブラジルを美しくする会（ブラジル）

第3回（平成20年度）

文部科学大臣賞　学校法人篠ノ井学園　長野俊英高等学校　郷土研究班（長野県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ（福岡県）

＊【小学生の部】該当なし　**【中学生の部】**2008 年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト（鹿児島県）
【高校生の部】更級農業高等学校　農業クラブ　農業応援団「ねこの手隊」（長野県）
【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ（島根県）

特　別　賞　◆尾道市立三幸小学校（島根県）　◆鳴門市第一中学校　ボランティア部（徳島県）
◆富山県立小杉高等学校　生徒会（富山県）　◆富貴中おやじの会（愛知県）
◆高知朝倉里山を造る会（高知県）

第4回（平成21年度）

文部科学大臣賞　豊田市立崇化館中学校　麦の会（愛知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**日吉子どもサミット（滋賀県）

＊【一般の部】該当なし　**【中学生の部】**名古屋市立はとり中学校（愛知県）
【高校生の部】中央学院高等学校　生物部（千葉県）

特　別　賞　◆SYD北海道クラブ（北海道）　◆横浜市立岡村中学校（神奈川県）
◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年（長野県）
◆みんなでつくる学校　とれぶりんか（大阪府）
◆広島文化学園短期大学　食物栄養学科（広島県）

第5回（平成22年度）

文部科学大臣賞　高知大学　高知子ども守り隊　守るんジャー（高知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御前崎市立御前崎小学校（静岡県）
【中学生の部】京都市立嵯峨中学校（京都府）
【高校生の部】江楠学園　北陵高等学校　生徒会（佐賀県）
【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル　E.C.O（静岡県）

特　別　賞　◆清水町立清水中学校　劇団8・9組（静岡県）
◆宮城県立塩釜高等学校地域活化班　塩釜ぼんぼん（宮城県）
◆愛知県立日進高等学校（愛知県）
◆京都精華大学　ホスピタルアートボランティアグループ（京都府）

第6回（平成23年度）

文部科学大臣賞　善通寺市立東中学校　ボランティア部（香川県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御蔵島村立御蔵島小中学校　黒潮会（東京都）
【中学生の部】港区立青山中学校　お話会（東京都）
【高校生の部】岡山県立久世高等学校　家庭クラブ（岡山県）
【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ（静岡県）

特　別　賞　◆大和市立渋谷中学校（神奈川県）
◆新潟県立柏崎工業高等学校　防災エンジニアコース3年生、2年生（新潟県）
◆栃木県立栃木農業高等学校　村おこしプロジェクト班（栃木県）
◆出雲西高等学校　インターアクトクラブ（島根県）　◆播磨マリンクルー（兵庫県）

第7回（平成24年度）

文部科学大臣賞　埼玉県立桶川西高等学校　科学部（埼玉県）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**藤岡市立東中学校　生徒会（群馬県）
【高校生の部】盈進中学高等学校　ヒューマンライツ部（広島県）
【大学・一般の部】旭川医科大学　育児院学習サポート（北海道）

特　別　賞　◆喜多方市立第三小学校（福島県）　◆Ｖ．Ｃ．（ボランティアサークル）イヤリング（愛知県）
◆東京都立大島海洋国際高等学校　ボランティア部（東京都）
◆網地島（あじしま）ふるさと楽好（がっこう）（宮城県）

Happy Seeds

SYD『幸せの種まき運動』とは

－みんなでまこう！幸せの種－をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という‘ふれあいの種’
☆どうぞ！という‘思いやりの種’
☆ありがとう！という‘よろこびの種’